

翻刻 山脇元業 『和泉流翁伝書』(上)

中野 顕 正

本稿は、架蔵の山脇元業もとむら『和泉流翁伝書』を翻刻紹介するものである。

本資料は、能楽の演目の中でも神事として別格視されている《翁》についての狂言方きやうげんかた和泉流の伝書であり、《翁》において狂言方が勤める千歳・三番叟の心構えや様々な演出について網羅的に記したものである。本資料に記された内容は以下の通り。

- ・ 目録(1オ)
- ・ 第一条「式三番別火定次第之事」(2オ) …… 出演者が上演数日前から精進潔斎を行う「別火」の作法を記す。
- ・ 第二条「楽屋入シテ心得之事」(2ウ・7オ) …… 上演当日の楽屋における作法や確認事項を記す。

- ・ 補足記事「鳳凰之風流」(7ウ・9ウ) …… 狂言風流(特別な機会に《翁》に挿入される、祝言を本旨とする寸劇)のひとつ「鳳凰風流」の詞章と演出を記す。本資料は狂言風流について詳述することを目的としているが、「鳳凰風流」では鈴之段(三番叟の舞の後半部)が三番叟と風流シテ(后稷)との相舞となることから、本資料内に収められたものであろう。
- ・ 第三条「千歳経」(10オ・25ウ) …… 千歳の詞章、舞台上での作法と心構え、舞の型について詳細に記す。詞章は、通常演じられる初日之式のほか、二日目之式・三日目之式・四日目之式をも収めている。
- ・ 第四条「三番叟」(26オ・74ウ) …… 三番叟の詞章、舞台上での作法と心構え、舞の型について詳細に記す。

す。このうち採之段（三番叟の舞の前半部）の型については、通常演じられる初日之式のほか、二日目之式・三日目之式および「橋掛之舞」「附之舞」をも収めている（四日目之式は初日之式同様とされている）。

・第五条「延命冠者云事」（75オ）：シテ方の異式演出「父尉延命冠者」における千歳（延命冠者）の詞章を記す。但し「右昔ヨリノ書物ニ有之 併云ベキ事ニアラズ」と注記されているように、本資料への収録は実際の上演を想定してのものではなかったらしい。

・第六条「十人子」（75ウ・77オ）：同名の異式演出（現行の小書「子宝」に相当）の詞章を記す。なお「二日目ニ云之」との注記がある。

・第七条「烏帽子祝儀」（77オ・79オ）：同名の異式演出の詞章を記す。なお「三日目ニ云之」との注記がある。

・第八条「田歌ふし」（79ウ・80ウ）：同名の異式演出の詞章を記す。

・第九条「作り道」（81オ・82オ）：同名の異式演出の詞章を記す。

・第十条「三髪之祝儀」（82ウ・83ウ）：同名の異式

演出の詞章を記す。

・第十一条「声乎引」（84オ・84ウ）：同名の異式演出の詞章を記す。

・第十二条「毘沙門之風流」（85オ・88オ）：狂言風流のひとつ（毘沙門風流）の詞章と演出を記す。（風流風流）同様、鈴之段が三番叟と風流シテ（毘沙門天）との相舞となることから、本資料内に収められたものであろう。

・奥書（88ウ）

本資料では、武家式楽における貴人御前での作法が紹介されている点や、通常上演される初日之式以外の様々な異式演出が詳述されている点が注目される。《翁》の異式演出は、民俗芸能等と共通の詞章を有するものも存在するなど、芸能史研究上重要な意義を有するものだが、これら異式演出の殆どは上演機会の極めて稀なものであり、その実態を知ることが従来容易ではなかった。これらの点において、本資料は大きな研究的価値を有するものといえる。（本稿では、このうち目録から第三条までを翻刻掲載する。）

著者の山脇元業は、尾張藩に仕えていた和泉流宗家（山脇家）の七世で、「流儀総帥として終生を通じて、意欲的に流儀の統一、確立をはかろうとした」と評される人物。天

明二年（一七八二）に町医の子として生まれ、寛政四年（一七九二）から六世山脇元貞の養育を受ける身となった後、同十年に養子、文化十三年（二八一六）に元貞の死去に伴い三十五歳で家督を相続した。既に本居宣長の門人であった養父元貞の段階で狂言詞章の訓詁注釈や本文の改訂が試みられていたが、家督相続後の元業も狂言台本の改訂・書写を精力的に行い、和泉流山脇派台本の決定版ともいえる『雲形本』を中心に、多くの伝書を遺したことが知られている。本資料も、そうした状況の中で著された伝書のうちの一つである。

（注1）佐藤友彦「『二子相伝之秘書』の成立と山脇和泉元業について」（『雲形本研究会編『二子相伝之秘書』八木書店、一九九八年）。山脇元業の事績については同稿に詳しい。

◆凡例

・底本には架蔵本（笹野堅旧蔵、蔵書印あり）を用いた。その書誌情報は以下の通り。全一冊、袋綴、法量二七・六×一九・九糎、墨付八十八丁。料紙は楮紙。外題・内題ともに無し。奥書「此一冊ハ古今和合之秘書ナレバ大切ニ持伝ノ必々他見無用也ノ文政十一年戊子六月 山脇和

泉源元業（花押）。紺色の帙に、同一の装丁・法量・表紙を有する『和泉流宗家記録』一冊および『和泉流免状関連史料』一冊とともに収められ、帙題簽には「和泉流雲形本」と墨書されている。

・字体は通行のものに改め、合字も通行の片仮名に改めた（例…↓コト）。

・本文は墨・朱の二色によって記されているが、本稿ではこのうち朱の箇所をゴチック体にすることで区別した。なお、本文中の記号である二種の合点へ／および句切点・はいずれも朱で記されたものである。

・挿入字は〔 〕、小字による注記は ◇ によって示し、傍注は（◇）によって示した。

・見せ消字は「掌」のように示した。

・節付記号（ゴマ点・音階表示等）は原則として割愛した。本稿収録範囲で節付記号が施されていたのは、補足記事「鳳凰之風流」の詞章箇所と、第三条「千歳経」冒頭の「初日」から「四日」までの各詞章の箇所である。

・その他、翻刻再現の難しい箇所は **写真①** のように示し、対応する原本の写真を末尾に掲出した。

・丁の変わり目は「（オ）」によって示し、丁数を明示した。たとえば「（オ）」は2丁表の末尾であることを表す。

・朱合点入のうち、改段落の目的で行頭に付されたものについて、項番号を付し、^①のように表示した。

・補足記事「鳳凰之風流」では、詞章中の難読字に対応する形で欄外上部の余白に「黄覇」^{クラツハ}（7ウ）、「薰」^{クニ}「后稷」^{ウツヒ}「虞」^ウ「穀」^{コク}「民」^{ミン}（8オ）、「簫韶」^{セウセウ}（8ウ）、「夔史」^{キシ}ノ子ノ土トモ」^モ（9オ）の書き入れが存在するが、本翻刻では割愛した。

一 別火定之次第

楽屋入シテ心得之次第

〈此間ニ鳳凰之風流アリ 但序ナシノ伝〉

二 千歳経之次第

三番叟之次第〈附タリ四方面之伝〉

三 延命冠者之云事

十人之子

四 烏帽子之祝儀

田歌ふし

五 作り道

六 三髪之祝儀

十一 声を引
十二 毘沙門之風流（仕舞附）（相舞之伝）^①

① 一 式三番別火定次第之事
② ① 三番叟・勤シ者ハ・其日トモ・本式ハ・七日・六夜・慎之也

但・二度目ヨリハ・其日トモ・五日・四夜・慎之也・尤・心得次第ニテ・〔本〕式ヲ・用ユベシ

② ② 千歳・勤シ者ハ・其日トモ・三日・二夜・慎之也

③ ③ 三番叟等・後見・兩人ノ者ハ・其日ノ朝・慎之也

④ ④ 三番叟・装束・前方ニ・着用・試置ベシ・千歳モ・右ニ

・准ズベシ

但・込大口・直垂・裾ヨリ・壺式寸・短クキル物也^②

二 楽屋入シテ心得之事

① ① 烏帽子・両様トモ・猶更・試見ルベシ

② ② 御面・鈴・取出シ・ミダレ箱ノ・蓋様ノ物ニ・ノセ・和

ヲ・キセ・用意置ベシ・尤・信ヲ^シコメ・取扱ベシ

③ 翁ノ大夫・楽屋ノ様子ヲ・見合・御面・鈴ヲ・三番叟ノ
・後見ニ・持セ翁ノ大夫ノ・楽屋ヘ・ツカハシ・其役ノ
者ニ・渡ス・面・アテ物・アラバ・トレヌタメニ・裏ノ
方ニモ・面ノ・覆アテ・面ノ・紐ニテ・ク、リ・此儘・
入テ・給ハレト・申添マシソク・渡スベシ・尤・面ノ・覆・カ
ケタル儘・入ル也・鈴ハ・袋ナシニ・ハダカ也・又・翁
ノ太ツツ・夫方ヨリ・面・鈴・箱ヘ・入ルベシト・申來ル
事モアレトモ・夫ニカマハズ・持セ・ツカハス物也・全
体・翁大夫ノ方ニテ・黒色・鈴トモ・用意・箱ニ入ル・
趣意ナレトモ・多ク・狂言方ノ・面・鈴ニテ・勤ル也・
右ハ・入替ル・古実也・尤・箱ニハ・大夫方ニテ・入ル
也

但・翁大夫ノ方ヘ・御面・鈴・持行時・素襖・着用シ
テ・持・ハコブベシ

④ 千歳役ノ者・翁大夫ノ・楽屋ヘ行・面箱ノ・紐ノ・トキ
サバキ様・面ノ・取扱等ニ・オ好ハ・無之哉・此方ノ・
定ノ通ニテ・ヨロシキ哉ト・得ト問合・好アラバ・其好
通ニ・任スベシ・又・好ナシトアラバ・伝來・作法ノ通
ニ・スベシ（オ）

但・金春流ハ・面箱ノ蓋ヲ取・手前ヘ引・ウツムケタ
ル儘・両手ニテ・持居ルト・翁大夫・自身ニ・面・取

出ス也・右・取出スト・直ニ・蓋・アフムケ・箱ノ上
ニ置ト・翁大夫・面ノ覆（オホヒ）ヲ・ノセ・其上ニ・
面ヲ置・自身ニ・両ノ・紐ヲ・サバク也・其時・狩衣
ノ袖・蓋ニ・サハリ蓋・ウゴク事ヲ・イトヒ・蓋ニ・
ソツト・両ノ手ヲ・カケ・居ル也・翁大夫・紐ヲ・サ
バキ・手ヲ・引ト・千歳・跡ヘ・ニジリ・シサリ・扇
ヲ・ヌキ持・露ヲ取・立也・最初・面箱・翁ノ前ニ置
・紐ヲ・トキ・右ノ方ヘ・ハズシ・オロシ・紐ノ・両
ノ・フサヲ・行義・ヨク・直スベシ・又・金春流ニカ
ギリ・紐ヲ・左ノ方ヘ・ハズシ・オロス・例ナレトモ
・当時ニテハ・諸流ノ通・右ノ方ヘ・ハズシ・オロセ
ト・コノマル、様子也（オツ）

⑤ 揉出シ・大鼓・頭数・并・初段掛・打様其大鼓ニ・沓度
・打貫・聞ベシ・尤・当朝ニテ・吉・其余・狂言方ヨリ
・諸役ヘ・問合ス事ハ・無之・趣意也・皆・諸役ヨリ・
三番叟ヘ・問合ス・筈也・但・具合方ノ・熟魂ハ・別段
也

⑥ 三番叟装束 \ 折烏帽子 \ 三ツ襟 \ 但緋・鬱金カ
・浅黄アサギノ類 \ 著附ヘ・厚板・〔緋〕天井格子 但・〔細〕
天井格子ナレバ・緋ノ襟・肌付可然 \ 込大口 \ 但
・沓式寸・短ク・キルベシ \ 直垂 \ 但・模様付・

吉・前ノ・露革^{ツユカス}・下ノ・紐ニ・カタク・縫ツケ・置物也
・又・後口^シハ・タ、ミ・コミ・ハサミ両ハシヲ・トクト
・縫ツケ・置・クツロギタル時・後見ノ者・ハサミニテ
切・シワヲ・ノバス・左ナクテハ・拝伏等ノ内ニ・後口
・ヌケル物也・又・首筋ハ・襟ノ下・セナカニテ・トク
ト・縫留・置物也・是ハ・襟ノ際ニテ・トムルハ・悪
シ^レノ末広・持^レ但^レ・白骨・ツマクレナキ・絵ハ・
古例ノ通^レ

但・式三番ノ・真伝^{ザル}・不^{ワキマエ}弁者ハ・三襟・ツマク
レナキノ・末広・用ユ^{（4オ）}「ベカラズ・一通・伝授ノ者
ハ・二ツ襟・ツマクレナキニ・アラザル・末広・用ユ
ベシ・但・襟・緋ニ・カギラズ・著附ニ・見合スベシ
^{（7）}千歳・装束・三番叟ニ・同断・但・襟ハ・常ノ通・二ツ
襟也色ハ・見合・尤・緋ハ・不^レ用・末広モ・ツマクレ
ナキニ・アラザル・鶴カメノ・末広也

^{（8）}大夫方ハ・物着等・手厚物故・翁装束・早整狂言方ハ・
兩人ノ・用意・其上・込大口杯ノ・着用方・存外・隙ド
ル物ナレバ・翁ヨリハ・先へ・装束ニ・カ、ルベシ・オ
クレタルハ・勤向ニ・障ル也

^{（9）}神酒・頂戴之事・翁・流儀ニヨリ・種々・違也・是ハ・
翁大夫ノ・差図次第ノ事也・右・頂戴ノ事・通ジアラバ

・装束・衣紋・ツクロヒ・扇ヲ持^{ウスグツ}・上履ヲ・扱^キ・神酒頂
戴ノ席^{セキ}へ・行ベシ・必々・履^{クツ（4ウ）}「扱事・ワスルベカラズ
・尤・千歳モ・同様也・右頂戴式スミ・履・ハク事ハ・
勝手次第也・右頂戴式ノ伝ハ・一子相伝ノ秘書・并・野
村又三郎信興・書置シ・式三番見聞記等ニテ・合点・ス
ベシ

但・神酒頂戴ノ事・観世流・金春流ハ・当時・御前掛
ノ節ハ・神酒カザリモ・無之ヨシ・御前掛ニテハ・御
具合・専ノ御事故・此式除ヨシ・尤・私事ニハ・神酒
カザリ・有之ヨシ・尤・有無トモ・勝手次第ノ・様子
・其内・金春流ハ・中古・頂戴式ハ・私事トモニ・セ
ヌ様子也

^{（10）}翁大夫・幕際へ行・「幕ニ向」牀机ニ・カ、リタラバ・
三番叟・千歳トモ・其^{（5オ）}「跡ニ・引続・鏡ノ間へ・列居
ス・三番叟ハ・翁大夫ノ後口ニ・幕ノ方ニ向・トクト・
スハリ・居ル・千歳ハ・翁大夫ノ・右ノ方・側ニ・トク
ト・スハリ・待座ス・是ハ翁大夫ノ方ニ向・居ルベシ・
狂言方・後見・二人トモ・三番叟・千歳ノ側ニ・恰合能
・列居スベシ

^{（11）}翁初ノ・御使・公義表ニテハ・若年寄衆・御家ニテ
ハ・御用人衆也・但・三室町殿ノコロヨリ・御当家・

御三代様迄ハ・御使・御掛・御老中ノヨシ・公義・翁
初ノ・御使ヲ・上使ト称シ・其余ハ・御使ト・称ス
〔翁初ノ・御使ノ具合ハ・出御・御年寄列衆始・
御目見・有之夫ヨリ・二畳台ニ・御着座・其時・御用
人衆〔公義ニテハ若年寄衆ノ役〕・御落椽ニ・伺公・

御前ヲ窺・御落椽通り・御前ノ・階ヲ・下リ・御舞台ノ
・階ヲ・揚リ申サレ候ヲ・見掛・御幕際ニ・伺公ノ者
〔公義ニテハ触流ノ役〕・翁大夫へ・通ズ・其時・翁大
夫・牀机ヲ・下リ・トクト・着座ス・此時・御幕・烏帽
子ノ上迄・半幕ニ揚ル・御用人衆・仕手柱ノ・際ニテ
・片膝・片手突申サレ・はじめませいと・御申ノ時・翁
ノ大夫・扇持タル儘・御請平伏ス・其時・三番叟モ・扇
持タル儘・目立又様ニ・ソツト・前ニ・手ヲツキ・其体
ヲ・窺居ル也・御使・御立揚リ候ト・御幕・下ルト・
千歳ノ者・翁大夫ノ前ニ・立左右ノ袖・露ヲ・小指ニ・
オチヌ様ニ・トクト・カクル也・扇ハ・始ヨリ・サシ居
ルガ・ヨシ・」大夫・後見ノ者・面箱渡ス・千歳・受
取・幕ニ掛ル・面ノ・髭ノ方・向フへ・ナル様ニ・持物
也・サルニヨツテ・受取時・御面ノ・髭ノ方ハ・ドチラ
デゴザルゾト・後見ニ・念ノタメ・尋ベシ・又・流義ニ
ヨリ・神酒・頂戴・スムト・直ニ・面箱千歳ニ・渡ス・

流義モ・アル也・左様ノ時ハ・千歳・受取・幕ニ・掛ル
迄ハ・三番叟ノ・後見ニ・持セ・置ベシ・待事・長キ時
ハ・後見・代リ々ニ・持居ルベシ・聊モ・面箱・下ニ・
置ベカラズ・翁大夫ノ・楽屋ニテ・面箱・千歳ニ・渡シ
タラバ・千歳・受取・鏡ノ間迄・持来リ・鏡ノ間ニテ・
後見ニ渡シ・持セ置ベシ・金春流ハ・多分・幕ニ・掛ル
時・面箱・千歳ニ・渡ス也・翁大夫・御請・スミ・御使
・御立揚リ候ト・御幕・下ル・千歳・面箱・受取・御幕
ニ・掛ル・此間ニ・翁大夫・三番叟ノ・衣紋〔⁶〕ヲ・物
着ノ者・直ス・御使・御正面ノ階ヲ・揚リ申サレ候コ
ロ・翁大夫・御幕ト・声カケ・本幕ニ・揚サセ・面箱ノ
・千歳・翁大夫・三番叟ノ・狂言・其外・囃子方・一統
・大夫ノ・後見・地謡三番叟ノ・後見・次第ニ・練出ス
・但・我家ニテハ・地謡迄・本幕ニテ・出ルトモ・三番
叟ノ・後見ハ・兩人トモ・一ノ跡ヨリ・片幕ニテ・出・
物着ノ場ニ・座ツキ・居ル・又・風流ノ式・有之時ハ・
風流・地謡ノ者・大夫・地謡ノ次ニ・片幕ニテ・出大鼓
座ノ次・ウシロニ・重座ニ・居ルベシ・尤・大鼓ノ方・
上座也・但・風流式ノ・地謡ハ・翁ノ・地謡ト・入替リ
ニ・ナル・申合ノ時ハ・切戸口ヨリ・出入・スベシ・尤
・狂言方・地謡・風流式・スムト・切戸口へ・引取ルベ

シ・風流式二・ツキタル・後見毛・同様也(アオ)

鳳凰之風流 〔三番叟之風流〕初段スギ・鈴請取

・一声二成 〔あらふしきやシカ〕替コトナシ

作法トモ也

鳳凰二人以上 〔大勢出〕一ノ松二・立留・一声謡 〔上〕有が
たや・今此君にあひ竹の世々をかさねて・出るなり
三番叟 〔出向〕あら奇特や・是へ鳳凰の飛来するは・いか
様成子細にて候ぞ 鳳 〔去事にて候〕天下泰平の御代には
・聖人も出 生し・仙人も山より出るならひなり・か
様のめでたい折柄には 此鳳凰出ずといふ事なし・只今三
番申楽の舞にひかれ・是まで来義 仕りて候 〔三〕かゝる
奇特成事こそさふらはねさらば鳳凰のめでたき子細あらば
語てきかせ候へ 鳳 〔それ鳳凰のめでたき子細といつは
シヨロダイイチ ナ 〔シレイ ヒトツツメソフ アツメ
・諸鳥第一の名を得て四霊の一と仰がれ・七の徳を集
て五の色をあらはす・されば李太白が詩にも・鳳九千仞
にとぶ・五色采珍を備とつくれたり・又漢の黄覇とい
つし人・国を治るにまつりごと天下第一なり〔れ〕ば・
其時この鳳凰国の境に出て・集湊たり・なむほうめ
でたき物にて候ぞとよ かゝるめでたき事こそさふらはね

・只今われらすゞの段を舞さして候・頼まはう間・先あ
れへまあり見物せられ候へ 鳳 〔心え申候へト云テ・ワキ
座へ行・上座・叟ノ座ツク程・アケ・皆・次第二・座へ・
ツクベシ〕 〔三〕〔舞カ、ラント・スル所・一声二・ナ
ル二依テ〕あら奇特や・又拍子にちがふて舞のまはれぬは
いかに・其上異香薫じたゞならぬ気色にて候へト云テ・
作法替コトナシ 〔后〕叟 〔一ノ松二出一声謡〕 〔上〕をさま
れる・国を守りての今までも 〔シテ柱ノ先へ出ル〕とり
つたへたる・舞樂かな 〔三〕〔出向〕是へふしぎなる人二
人出られて候がいかがなる人にて候ぞ 后 〔其事にて候・
これは虞舜の世に 后稷といへる者なり・かゝるめでた
き折を得 鳳凰まで飛来仕て候間・われらごときも罷出・
今日のめでたき御能をも見物申さむ為・是まで参じて候
〔三〕かゝるめでたき事こそさふらはね・さあらば迎ものお
事にて 后稷の御身のめでたき事を御物語候へ・承りたく
候 〔后〕稷 〔ヤス 〔コトカツツメ〕 〔クニトタメ〕を
しき・稼穡の道を教ぬれば・それよりして国富民ゆたか
にして万民のよろこひかぎりなし・さればその世に泰平の
奇瑞有て 鳳凰飛来て舞あそぶ・今もつて 鳳凰の飛来す
るもわれ国を治し故なり・なむほうめだき例にてはさ
ふ〔ら〕はぬか 〔三〕〔実〕にめでたき事にて候・又あれなる

はいかやうなる人にて候ぞ 變 是は虞の帝にて・その名を
 變と云者なり・我音楽の道にすくれたれば鬼神をもやはら
 げ・人の心をも 慰ぬれば・天下泰平の御代となる
 又鳳凰は靈有鳥にて・我音楽の妙成感して庭上に飛来
 り舞あそぶ・されば諸人のくちづさみにも・蕉(簫)韶九
 成すれば・鳳凰来義すといへり・かゝる例も・皆是我音
 楽の威徳なり・なむほうたゞしき謂にてはさふらはぬ
 か 三 扱も 是はめでたき事共を承り候物かな・我等
 いまだ鈴の段をまはず候・只今まはうずる間・是にて見物
 あつて給り候へ 后 夫はめでたき御事にて候・さあらば
 われらも相舞にまはうずるが何と候べきぞ 三 それこそ
 猶もつてめでたう候へ 頓相舞にまはうずる間・こなた
 へ御入候へ 后 心え申て候へト云・一拍子ニ・小鼓・タ、
 ツタツポト・打出スト・三番叟・后稷トモ・少シ・上へ・
 ハコビ・兩人トモ・正面向ナラビ四海国土ヲ・二人謡出シ
 ・返シニテ・三番叟ハ・露ヲトリ・カ、ル 又・后稷ハ
 ・右ヘヒラク所へ・後見・鈴持出渡ス 又變ハ・二人ノ
 ・ウシロヲ通・ワキ座ノ一ノ上ヘ行・座ツク 尤是ハ笛
 序ナシニ・謡ニテ・鈴ニカ、ル伝也・サルニ依テ・イヤハ
 ハノ拍子ニ合様ニ謡コトナリ 又、ツタツポイヤしikai
 こくどのあむせむはしかいこくどのあむせむはをさめざる

にたいらかなり〔頭カ、リ也〕イヤホヒヤトル口也・
 (↓写真①)但・此謡カ、リハ・囃子方ト・云合次第也・
 是ハ・具合ノ曲也・モシ・囃子方・カレコレナラバ常ノ・
 序・シカルベシ・又・狂言方モ・謡・功者ノ曲也 鳳凰
 二人ノ 上 四海国土の安全は・しかいこくどのあむせむは
 ・をさめざるにたいらかなり 〔鈴之段相舞スミ・太コノ
 頭聞〕 二人ノ 上 ヨクきしは琴をかきならし 〔太コ頭聞〕 聞音
 きしはことをかきならし・数曲をつくし 弾たまへば鳳凰
 よるこびつばさをつらね・まひあそびつ・雲路をさして
 あがらむとするを・おの 名残を・をしみたまひ・まね
 きたまへばまたとびきたり庭上におりあて・めでたし
 今此時に・あひおなじと・御世をあふぎたてまつり
 これまでなりとて丹穴の山さして ければ・みなめむ
 くに信仰をなしてまひをさむることめでたけれ
 二人トモニ返シノ・きしは琴ニテ例ノ通・両方へ・
 鈴・オキニ行・三番叟ハ・シバラク・シテ・立出ル后稷ハ
 ・直ニ立出・数曲をつくしト・變ヲ・扇ニテ・サシヒク
 變ハ返シノ・きしはヨリ・琴ヲ弾ズル仕形ス 鳳凰ハ
 鳳凰悦ヨリ皆立出舞雲ちをさしてヨリ・皆ハシガ、リへ・
 行ヲ后稷・入替リ・上ノ方へ・ヒラキ・扇ニテ・マネキ・
 カヘス・尤三番叟モ・同様・タルベシ 鳳凰又とび来ト皆

等ニハ・千歳・面箱ヲ・持テ・出ル・尤・千歳経ノ・舞
ヲ・舞・後段ノ・アト役・鈴ヲ・渡シ・入ル也・左右ノ
・露紐ヲ・小指ニ・カケ・面箱ヲ・図ノゴトク・箱ノ・
スミヲ・両手トモ・大指ヲ・箱ノ・脇バラニ・アテ・残
リノ指ハ・四本トモ・箱ノ底ニ・ベツタリト・アテ・タ
シカニ持・箱ヲ・目八分・ニサシアゲ・両臂トモ・両方
ノ・乳ノ・アタリヘ・ツケタル・心得〔持〕ニテ・見事
ニ持・箱ノ・手前ヨリ・板筋ニ・目ヲ・ツケ・箱ノ・フ
ラツカヌ様ニ・体正シク・腹ニテ・ハコブ也・尤・両臂
トモ・乳ノアタリニ・ツケタル・」心持・ナク・両手
トモ・十分ニ・サシ出シ・サシ上・持出ル方・見事ニテ
・猶以テ・ヨク・アルベケレトモ・長キ・橋掛杯ニテハ
・万一・手ノ・フルフ大事ヲ・イトヒ・両臂トモ・乳ノ
アタリヘ・ツケタル心持ニテ・見事ニ・持出ル事・我家
ノ・仕来・口伝・幕ヲ・アゲサセ・第一番ニ・左ノ足ヨ
リ・シヅカニ・出ル・橋掛・口伝有・陽專ノ・心持ニ
テ・橋掛・真中ヲ・真ニ・出ルベシ・少シモ・後口・欄
干ノ方ヘ・ヨルベカラズ・真中ヲ・出ル物也・両足トモ
・遅速・ムラ・ナキ様ニ・シヅカニ・出ルベシ・体
不レ整・フラツキ・足ニ・遅速アツテ・見ニクキ也
・板筋・見ル事・ユダンスベカラズ・心掛・大事也・シ

テ柱ヲ越・四五尺・舞台ヘ・ハスニ・ス、ミ出・シツト
リト・正面向・真直ニ・正面ヘ出・正面ヲ・四五尺・明
・出ナリニ・左ノ足・出シ・直ニ・」引・又・右ノ足
引・腰ノ・カヅマヌ様ニ・シツトリト・右ノ膝ヲ・ツキ
・左ノ膝ヲ・立・見合・居ル也・此膝・ツク時・聊モ
・音ノ・セヌ様ニ・右ノ膝・ツキ・体ノ・片ムカヌ様ニ
・真直ニ・居ルベシ 入翁大夫・舞台・真中・向フヘ・
出・片膝ツキ・左右ノ・袖ヲ・ヒロゲ・礼シテ・立アガ
リ・翁大夫ノ・定座ニ・ツキ・目付柱ノ方ニ・向・案座
シテ・左右ノ袖ヲ・直スト・直ニ・千歳・翁大夫ノ方ニ
・ニジリ向也・此翁大夫・礼シテ・座ツク迄ノ・間・思
ヒノ外ニ・隙ドリ・長物ナレバ・面箱・始ノ通ニ・持テ
居テハ・腕・ツカレ・フルヒ・出シテハ・見苦シキ故・
片膝・ツク時・両手トモ・少シ・サゲ・臂ヲ・休ム・心
持ニ・ナルベシ・尤・目ニ立程・サグベカラズ 入但・
礼スル場・大夫ニヨリ・上ノ方ニ・居ルモアリ・又・下
ノ方ニ・居ルモアリ・」サルニヨツテ・千歳・舞台・
真中ヘ・出ル事モアリ・能・尋テ・大夫次第ニ・スベシ
入翁大夫・座ツキ・袖ヲ・直シタラバ・間ノ・アカヌ様ニ
・千歳・翁大夫ノ方ニ・ニジリ向・両臂・乳ノアタリニ
・ツケタル心持ヲ・ワスレ・面箱ヲ・サシ出シ・持・立

アガリ・真ノ・位ヲ・ワスレヌ様ニ・スラクト・ハコ
 ビ・翁太夫ノ前へ行・面箱ヲ・翁大夫ノ・頭ノ上へ・
 戴イヅカス様ニ・近寄リヨ・足トメ・左リ・右リヲ・引・右ノ
 膝ツキ・面箱ヲ・オロシ・先・箱ノ・左ノ方・向フノ・
 隅スヲ・板ニ・ツケ・扱ツ・同ク・右ノ隅スヲ・板ニ・ツケ・
 夫ヨリ・箱ノ前〔ノ方〕ヲ・シツトリト・下ニ・ツケ・
 両手トモ・引・左右ノ・露紐トキヲ・ハヅシ・面箱ノ紐トキヲ・
 解トキ・御面ノ・作法ニ・カ・ルレ・但・翁大夫ノ・頭ノ上
 へ・戴イヅカス程ニ・近ク・寄トル・思〔思〕ヘトモ・夫程ニハ
 ・ヨレガタキ物故・カクノゴトク・云伝タル事也・一通
 リ・翁大夫ノ・前ト思ヒテ・左右ノ・足ヲ・引・片膝ツ
 クト・跡へ・シサリスギ・後ニ・面箱・翁ニ・マキラス
 時・オヨビゴシニ・ナリ・恰合カウカウ・悪ク・不束ニ・見エル
 也・心得アルベシ 入翁ノ側へ・面箱持行所・ツカく
 ト・ハコブニ・アラズ・真ノ位ヲ・ワスレズ・スラク
 ト・ハコブベシ 入翁大夫・礼スミ・定座ニ・座ツキタ
 ラバ・千歳・直ニヂキ・翁ノ方ニ・ニジリ向ベシ・暫シバラクニテ
 モ・間ノアヒ・アクハ・甚・悪シ・翁・定座ノ方・甚・見ガ
 タキナレバ・息イキ・コキウニ・心掛・アルベシ・又・翁・
 流義ニヨリ・案座スル時・足音・トント・スルモ・アリ
 ・又・狩衣ノ袖・バツサリト・音スルモ・アリ・夫ヲ・

聞カケノ・相図ニシテ・千歳立〔千歳〕・ヲ・口伝トス・右
 ノゴトクノ・流義ノ時ハ・息コキウ・安氣ナレトモ・金
 春流ナドハ・翁・座スル時・足音モナク・又・狩衣ノ袖
 ・バツサリト・スル音モ・ナキ様子ナレバ・別テ・金春
 流ノ時ハ・凡・足数・息ノ・コキウニテ・シル事・肝要
 也・千歳ノ・見合場ヨリ・翁ノ座ハ・一向ニ・見エズ・
 翁・座ニ・ツキテ・間ガ・有ヤラ・無ヤラ・シレガタケ
 レバ・諸流トモニ・トカク・凡・足数・息ノ・コキウニ
 テ・シル事・ユダンナク・心掛ベシ・息ノ・コキウ・正
 シケレバ・目ニハ・見エズトモ・シゼント・氣通ジ・シ
 ル、物也

③ 入千歳・面箱ヲ・前段ノゴトク・翁大夫ノ前ニ・置左右ノ
 ・露紐トキヲ・ハヅシ・左ノ膝・立テ・居ナガラ・御面ノ・
 取扱ヲス・先第一〔一〕・番ニ・紐ノ・二ノ結ムスビ目・女結ビ
 ヲ・解トキ・両手トモアフ向ムケ・右ノ手ヲ・向フへ出シ・左ノ
 手ヲ・手前ヘシテ・房フサノ方・両方へ・引出ス持タル所・
 一度ニハ・ヒカレズ・持替テ・二度〔二〕・引出スベシ
 ・ワナノ所・長キ故也・右ノゴトク・引解ヒキキ・一ノ結ビ目
 ハ・其儘ニテ・トカズ・両手トモ・アフムケ・結ビ目ノ
 ・下へ入○〔サマニ○〕・少シユルメ△引上△直ニ・右ノ
 方へ・越シコサ・房フサハ・左ノ方へ・流シテ置・アマリ・ユル

ヲ・タテ・又・右ノ露ヲ・取・左右ノ露・持ナガラ・立
アガリ・○〔△貴人・神前等ニテハ〕四五間程向
フ・下ヘ・目ヲツケ〕千歳ノ・定座ヘ・行・斜ニ・正
面向・立留・左リ・右リノ・足ヲ・引・右ノ膝ツキ・左
ノ膝・立・座ツク也 〓露ハ・立留・左右ノ・足・引時
・左ヨリ・露・ハナシ・座ツク也

④居様・貴人・神前等ノ・御能ニハ・右ノ膝ヲ・ツキ・左
ノ膝ヲ・タテ・左ノ膝ノ・内ヘ・同・左ノ手ヲ・入・前
ヲ・カ・ユル様ニシテ・手ヲ・板ニ・ツキ・右ノ手ハ・
同・右ノ膝先ヘ・臂ノ・ツク程ニ・是モ・前ヲ・カ、
ユル・心持ニテ・扇持タル・右ノ手ヲ・板ニ・ツキ・末
広ノ・サキノ通りヘ・鼻ノ・行様ニ・両手ヲ・ツキ・
〔○背ノカマヌ様ニ〕尻ノ・アガル事ヲ・イトヒ・
額ノ・板ニ・ツク程ニ・ウツブシ・粵・御礼ヲシテ
・目ダ、ヌ様ニ・ジリ、ト・アタマヲ・アゲ・両手ヲ・
ツキタル儘・ウツブシ・粵・居ル也・額ヨリ・板迄
ノ間・凡・金サシニ・壹尺余ト・心得ベシ 〓但・勸
進能ニハ・アフムキ・イカニモ・ロクニ・真直ニ・見ユ
ル様ニ・居ル物也・口伝・尤・三番叟・居様モ・千歳・
同様ニ・心得ベシ

⑤又・金春流ハ・面箱ヨリ・白尉面ヲ・翁大夫・自身ニ・

取出ス也・其時ハ・千歳・面箱ノ蓋ヲ・○〔○両手ニテ〕
取・手前ヘ引・ウツムケタル儘・両手ニテ・持居ルト・
翁大夫・自身ニ・面・取出スト・直ニ・蓋・表ヲ・

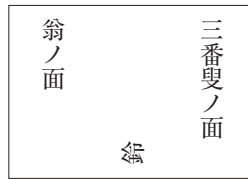
正面ヘ・見セ・蓋ヲ・アフムケサマニ・蓋ヲ・右ノ方ヘ
取・蓋ヲ・両手ニ持・箱ノ・身ノ上ニ・蓋ヲ・シットリ
ト・ノセ・置ト・翁大夫・面ノ覆ヲ・ノセ・其上ニ・面
ヲ置・自身ニ・両ノ紐ヲ・サバキ・面ノ・両脇ニ・タダ
リ置也・其時・狩衣ノ袖・蓋ニ・サハリ・蓋・ウゴク事
ヲ・イトヒ・千歳・蓋ノ・両方ニ・手ヲ・ソツト・カケ
・居ル也・翁大夫・紐ヲ・両脇ニ・タダリ・オキ・手ヲ
・引ト・千歳・跡ヘ・ニジリ・シサリ・扇ヲ・ヌキ持・
左右ノ・露ヲ・取・座ツク・作法ヲ・スル也

⑥但・面ノ紐・面ノ両脇ニ・タダリ置事ハ・金春流ニ・カ
ギラス・右ノゴトク・コノマル、・大夫モ・有也・猶・
図絵ニテ・合点・スベシ・尤・好ニ・マカスベシ

⑦面箱ノ内ノ居・翁大夫ノ方ヨリ・白尉面ハ・左リノ方・
又・黒尉面ハ・右ノ方・前ニ・鈴ヲ・入・アル也・
但・左右ノ・ワカチ・ナク・入置人モ・有也翁ノ面・取
出ス時ニ・心得アルベシ・夫ニツキ・古事アリ・昔・京
都ニテ・観世大夫・勸進能ノ時・始リ・早ク・未明・暗
キニ・面箱・持出ル・舞台ニテ・面ヲ・取出スニ・暗ク

テ・知レガタキニ哉・翁ノ舞ノ・時分ニ・夜モ・ホノ
 〱ト・明ルニ順シタヒ・翁ノ顔・次第二・黒クナル・黒尉
 面ト・取違トカヘタル由也・ヨク〱・心得ベキ事也

面箱内



舞士

絃

翁大夫

〔184〕

⑧ 観世・宝生ニハ・千歳・大夫ノ方ニ・有也・其時ハ・狂
 言方ヨリ・面箱・持出・三番叟ノ・相手ヲシ・鈴ヲ・渡
 ス役ヲ・スル事・バカリ也・此・大夫方ヨリ・勤ル・千
 歳ハ・翁大夫ノ・次ニ・出・翁大夫・礼ノ内・三番叟ト
 ・同事・シテ柱ノ際ニ・片膝ツキ・両手モ・ツキ・見合
 ・居ル 〱翁大夫・礼スミ・座ツクト・面箱持・立アガ
 リ・翁大夫ノ前へ・持行・翁ノ面・取出ス・作法ノ内ニ
 ・千歳・立・三番叟ニモ・面箱持ニモ・カマハズ・スラ
 〱ト・脇座へ行・座ツク也 〱面箱持ハ・千歳ト・翁
 大夫トノ・間ニ・座ツク也 〱千歳ハ・翁大夫ト・一度
 ニ・楽屋へ・入ル也・右ノ外・座拜・替事・ナシ 〱但

同仕舞附

・古書ニ曰・大夫・礼ノ内・三番叟ト・同事ニ・〔185〕橋
 掛ニ・居ル・扱・面箱持・座ニ・着ト・千歳・脇座へ・
 ナホル・トカクノゴトク・書記アレトモ・当時ハ・前段
 ノ趣ニ・心得ベシ 〱又・上掛リノ内ニモ・モシハ・翁
 大夫ニ・面ヲ・マキラセ・面箱持・立ト・千歳立・ツカ
 〱ト・早足ニテ・面箱持・座着ヌ内ニ・脇座へ・座着
 ・流義モ・アルカ・尤・千歳ハ・脇座・面箱持ハ・千歳
 ト・大夫ノ・間ナレバ・千歳・ツカ〱ト・出テモ・シ
 〱ツカニテモ・狂言方ニ・カマヒハ・ナケレトモ・差掛リ
 ・メヅラシキ事ハ・トリコム物故・心得・居ルベキ事也
 〱前段・面箱ノ・作法・又・左右ノ・露ヲ・取事ナド・体
 ・正シクシテ・両手トモ・ノビヤカニシテ・スベテ・腹
 ニテ・大様ニ・スベシ・尤・是ニハ・カギラズ・〔190〕ス
 ベテノ事・体クイ・腹ニテ・スルハ・シレタ事ナレトモ
 ・面杯ハ・少キテヒサ・カロキ物故・トカク・手先ノ・業ニ
 ・ナリ・不調法・出来ル物也・左アルニヨツテ・此作法
 ナドハ・体・腹ノ伝・ナクテハ・不整也・面ナド・至テ
 ・オモク・大様ナル物ト・心得・手足トモ・ノビヤカニ
 ・スベテ・体・腹ニテ・業ワザ・スベシ・口伝〔191〕

⑩ 入翁大夫・座着・謡アリ　＼鶴と亀とのよはひにて　地

幸心にまかせたり　＼とう／＼たらり／＼ら　地　＼ち

〔り〕やたらり／＼ら・たらりら、りら、りとう　＼此

・謡・スムト・笛・ヒシギ・有テ・鼓・タポ／＼ト・打
出ス也・此・ヒシギヲ聞・鼓・打出スト・一拍子ニ・

〔板ニ〕ツキタル・両手ヲ・アゲナガラ・左ノ足ヲ・引

・真直ニ・ナリ・体ヲ・ソナヘ・拍子位ニ・ノリ・ムカ
フヘ・カ、ル様ニシテ・立・一足・ス、ミ出・なるはヲ

・謡出スト・直ニ・右ヘ・ヒラキナガラ・左ノ露ヲ・ト

リ・大小ノ間〔前〕ヘ・ハコビ／＼・謡・カヘシノ時・

右ノ・露ヲ・トリ・日は照（明き）とも・ト云時・大小ノ間

ニテ・正面向・一足・ス、ミ出・踏留ル　＼但・古書ニ

曰・笛・ヒシギ有テ・鼓打出シ・タポ／＼ト・二三度程

・打ト・其儘・左ノ足ヲ引・向フヘ・カ、ル様ニシテ・

立・口伝・トアル也・シカル所・翁式ニ・間ノ切・呼吸（コキ）

ノ・キル、事ヲ・キラフ故・鼓ノ・タポ／＼〔ト〕・二

〔三〕度程・打ハ・多ク・是ニテハ・競ナク・趣意ニモ

・悪キ故・当時ハ・前書ノ・具合ニ・業（ワザ）・スル也

⑪ 入たえずとふたりありうどう・ト（中）左（左）右（右）ノ・露ヲ

小ナシナガサ・ムカフヘ・出・真正面向・踏留ル・向フ
ヲ・式尺余・アクベシ・入たえずとふたり・ト謡ナガ

ラ・右ノ方ヘ・陽ニ・ヒラキ・又・返シノ時・正面向・

陽ニヒラキ・一足・向フヘ・ス、ミ出・謡ノ・留ト・一

諸ニ・踏留（明き）・一扱（明き）・鼓ノ・拍子ニ・ツキテ・左・右・

左・ト・ヒラキナガラ・跡ヘ・シサリ・夫ヨリ・〔正面向

向〕右ノ足ヨリ・三足カ・五足・引・右ノ足ニテ・留・

拍子ニ・合セ・右ニテ・拍子・踏留（明き）〔写真②〕但チヒサキ

・ホシハ・左右左ヘ・ヒラキナガラ・シサル・拍子合也

・一ハ・跡ヘ・シサル足也・是ハ・鼓ノ・拍子ニ・カマ

ハズ・位ニ・ノリ・スラ／＼ト・シサリ・マク又様ニ・

イヤ●ハト・踏留也　舞　正面向ヘ・左リ・右リノ・足ヲ

・踏込・タツパイシ・右ノ足ヲ・引ナガラ・両手ヲ・ヒ

ロゲ・扇・タ、ミタル儘・大左右ス・〔左ノ露ヲ・ハナ

ス〕左ノ方ヘ・左ノ足トモニ・四足出〔左ヨリ出ルニ

ヨツテ也〕・左ノ袖ヲ・打返シ掛・夫ヨリ・目付柱ノ方

ヘ・ヒラキ・〔右ノ露ヲ・ハナス〕扇ヲ・サシアゲ・

カザエ・目付柱ノ方ヘ・廻リ掛・順ニ・大廻リシ・脇座

ニテ・角トリ・両手ヲ・ヒロゲ・大小ノ前ヲ・サシ〔行

・大〕小ノ前ニテ・扇ヲ・左ヘ・トリ〔扇ノ紙ノ・

本ヲ・持也〕・正面向（向）・競ニ・正面向（向）ヘ・左リ・右リノ

・足ヲ・踏込・其競ニ・扇ヲ持タル・左ノ手ハ・アフム
ケ・ウシロヘ・ノバシ・又・右ノ手ハ・サシアゲ・左リ

・右リノ・足ヲ・引留ル・競ニ・右ノ袖内ヘ・打込・庸〔肩〕ヘ・打アゲ留・夫ヨリ・左ヘ・ヒラキナガラ・扇ヲ・サシアゲ〔左ニ・扇ノ紙ノ本ヲ・持タル儘也〕・カザエタル心ニテ・送ニ・大廻リ・目付柱ノ方へ行・角トリ・両手ヲ・ヒロゲ・大小ノ前ヲサシ・行・大小ノ前ニテ・扇ヲ・右ヘ・トル・是ハ・常ノゴトク・持也・夫ヨリ・順ニ・小廻リシ・其廻ル競ニ・脇柱〔大臣柱トモ〕ノ方ヘ向・拍子ニ・合セ・〔拍子〕踏込也・此・踏込時・扇ヲ左ヘトル・是ハ・扇ノ・紙ノ・本ヲ・持也〔写真③〕カクノゴトク・千歳・声ヲ〔カケ〕・拍子・踏込也・始ノ・右左ノ・拍子ハ・ノリテ・カ口ク踏・又・留ノ右ノ拍子ハ・ツヨク・踏也・但・千歳・声・カ〔²¹〕クル事ハ・此・踏込・三ツノ・拍子ノ時バカリニテ・此外ニハ・声カクル事・ナキ也・右ノゴトク・拍子踏込競ニ・扇ヲ・左ヘ・トリ・其扇ヲ・ニギリ・持タル・左ノ手ヲ・留ノ拍子ニ・袖ヲ・外ヘ・カケ・打込・手ヲ・十分ニ・向フヘ・ノバシ・勇シク・ワカ・謡也・扇・持タル・左ノ手ハ・ウツムケ・サシ出ス也・両眼ハ・向フヘ・ツキ居ル也・右〔ノ〕ゴトクニシテ・所千代までヲ・謡・我らも千秋ト云時・身ヲ・フリカヘ・大臣柱ノ方ニ向・左リ右リノ・足ヲ・踏込競ニ・扇ヲ・持タル・左ノ手ハ・ア

フムケ・ウシロヘ・ノバシ・又右ノ手ハ・サシアゲ・左リ・右リノ・足ヲ・引競ニ・右ノ袖・内ヘ・打込・肩ヘ・打アゲ・直ニ・手早ク・左ヘ・ヒラキナガラ・左ニ・持タル扇ノ・紙ノ本ヲ・持タル儘・扇ヲ・サシアゲ・カザエタル・心ニテ・少シ・脇座ノ〔²²〕方ヘ・廻リカ、リ・大小ノ方ヘ・向時・左右ノ・手ヲ・オロシサマニ・扇ヲ・常ノゴトク・右ノ手ニ持・鳴は滝の水ト云時・左右ノ・露ヲ・トリナガラ・大小ノ間前ヘ・スラ／＼ト行・日は照ともト云時・正面向・一足・ス、ミ出・踏留・直ニ・たえずとふたりト・イカニモ・スラスラト・舞台サキヘ・出・足留・直ニ・ありうとう／＼ト云時・始ノ・舞ノ・カ、リノ・星付ノゴトク・ス、ミタル・位ニ・ノリ・左・右・左ト・ヒラキナガラ・跡ヘ・シサリ・夫ヨリ・正面向・右ノ足ヨリ・跡ヘ・スラ／＼ト・シサリ・其競ニ・七ツ拍子・勇シク・踏也・此七ツ拍子ハ・笛鼓ニ・カマハズ・踏物也〔写真④〕拍子・踏留タル・競ニ・〔²²〕正面ヘ・左リ・右リノ・足ヲ・踏込・タツバイシ・右ノ足ヲ・引ナガラ・両手ヲ・ヒロゲ・大左右ス・此左右ニ・カ、ル時・左右ノ・露ヲ・ハナス・左ノ方ヘ・左ノ足トモニ・四足出ル・其内ニ・扇・片手ニ〔ア〕・ヒログ・右ノゴトク・出・左ノ袖ヲ・袖〔打〕返

シ・掛・夫ヨリ・目付柱ノ方へ・ヒラキ・ヒラキタル扇
 ヲ・サシアゲ・ニギリ・持タル儘・カザエタル心ニテ・
 目付柱ノ方へ・廻リ掛・順ニ・大廻リシ・大臣柱ニテ・
 角トリ・両手ヲ・ヒロゲ・大小ノ前ヲ・サシ・行・大小
 ノ前ニテ・扇ヲ・左へ・トリ。〔○小廻リシ〕・正面向
 競ニ・正面へ・左リ・右リノ足ヲ・踏込・其競ニ・扇ヲ
 ・持タル・左ノ手ハ・ウシロへ・ノバシ・又・右ノ手ハ
 ・サシアゲ・左リ・右リノ・足ヲ・引留ル競ニ・右ノ袖
 ・内へ・打込・肩へ・打アゲ留・夫ヨリ・左へ・ヒラキ
 ナガラ・左^(23オ)ニ・ヒロゲ持タル・扇ノ・オヤ骨ヲ・手
 ヲ・ノバシ持・扇ヲ・サシアゲ・カザエタル・心ニテ・
 送ニ少サク・廻リ・三番叟ノ前へ行・小廻リ・シナガラ
 ・シテ柱ノ方ニ向^{ウカ}・競ニ・サシ出シタル・扇ヲ・右ノ肩
^{サキ}脇へ・打込・〔夫ヨリ〕少シ・左へ・ヒラク時・扇モ・
 勇シク・ヒラケ・又・シテ柱ノ方ヲ・向^{ウカ}・時・扇ヲ・内
 へ・打返シ・ニギリ持・顔ノ・左ノ方ニ・扇ヲ・カザス
 心ニ・カマへ・右ノ足ニテ・拍子ヲ・一ツ・踏留ル也・
 ●此拍子ニ・口伝有・笛・ヒシギ有・其ヒシギニ^{ヒヤヒ}
 ト・アテ・踏モ有・又^{ヒヤヒ}・ト・ハヅシ・踏モ有・右
 ハ・ハヅシ・踏方ヲ・専・用ユ・右ノゴトク・拍子踏・
 留・左右ノ・手ヲ・オロス時・右ノ袖モ・オロシ・○

〔○扇ヲ・右へトリ〕扇ヲ・タ・ミ・左右ノ・露ヲ・
 トリナガラ・千歳・定座ノ方ニ・向^{ウカ}・露・持ナガラ・
 〔○貴人神前等ニテハ〕四五間程・⁽²³⁾向フ・下へ・目
 ヲ・ツケ・千歳ノ・定座へ行・始ノゴトクノ・作法ニシ
 テ・座ツク也・但・神前・貴人等ノ・御能ニハ・両手ヲ
 ・ツキ・始ノゴトク・^{ツ、シシテ}居ル也
 〔22〕古書ニ曰・太鼓ト・大鼓ノ前へ向^{ウカ}・扇ヲ・内へ・カヘシ
 ・チヱ〔ヒ〕サク・拍子・一ツ・踏テ・留ル也・トアレ
 トモ・恰合・イカゞ故・当時ハ・前段ノ趣ヲ・用ユ・猶
 ・工夫アルベシ
 〔23〕又・替リノ・仕形・初段ハ・替事・ナク・同様也・後ノ
 舞ノ内・タツバイシ・カ、リ・大左右・シナガラ・扇ヲ
 ・ヒロゲ・左ノ袖ヲ掛・扇ヲ・サシアゲ・順ニ・廻リ・
 大臣柱ニテ・角トリ・両手ヲ・ヒロゲ・大小ノ前ヲ・サ
 シ行・大小ノ・前ニテ・扇ヲ・左へ・トリ・正面へ・向
 所ヲ・扇^(23オ)ノ・オヤ骨ノ・真中ヲ・ニギリ持・両手ト
 モニ・サゲ・左へ・ヒラキ・送ニ・中廻リシ・大小ノ前
 ニテ・順ニ・小廻リシ・正面向^{ウカ}・競ニ・正面へ・左リ・
 右リノ・足ヲ・踏込競ニ・扇ヲ・持タル・左ノ手ハ・ウ
 シロへ・ノバシ・又・右ノ手ハ・サシアゲ・左リ・右リ
 ノ・足ヲ・引留ル競ニ・右ノ袖・内へ・打込・肩へ・打

アゲ留・夫ヨリ・左へ・ヒラキナガラ・左ニ・ヒロゲ・
 持タル・扇ノ・オヤ骨ヲ・ニギリ・持・扇ヲ・サシアゲ
 ・カザエタル・心ニテ・送ニ・廻リ・目付柱ノ・下迄行
 ・小廻リシナガラ・目付柱ノ外ニ・向競ニ・サシアゲタ
 ル・扇ヲ・右ノ・肩先^{ヰキ}へ・打込・夫ヨリ・少シ・左へ・
 ヒラク時・扇モ・ユシク・手ヲ・ヒラケ持・又・目付
 柱ノ・外ニ・向時・扇ヲ・内へ・打返シ・ニギリ持・顔
 ノ・左ノ方ニ・扇ヲ・カザス心ニ・カマへ・右ノ足ニテ
 ・拍子ヲ・一ツ・⁽²⁴⁾踏留・作法ノゴトク・スル也・是
 ガ・替リメ也・四日ノ・仕舞ノ内ニ・一日モ・二日モ・
 舞ベキ也
⁽¹³⁾後ノ舞・留ノ所・小廻リシナガラ・扇ヲ・右ノ・肩先へ
 ・打込・夫ヨリ・左へ・ヒラク時・扇モ・勇シク・ヒラ
 ク仕形ハ・全・笛・留ノ・ヒシギノ・聞カケ也

⁽¹⁵⁾右^{ヨウ}万・秘事ナルベシ・段々・口伝ニ・有之
⁽¹⁶⁾貴人・神前ニテハ・拜伏シテ居ル故・揉出シ・頭取・打
 カ・リタラバ・両手ヲ・アゲ・ロクニ・ナリ居ルベシ・
 但・三番叟・初段・スギ・クツロギタル間ハ・拜伏・セ
 ヌ物也・是ハ・業ノ内ト・心得ベシ併・御用振ニヨリ・
 御例・アルニオイテハ・其御例ニ・⁽²⁵⁾マカスベシ
⁽¹⁷⁾千歳ニ・鈴ヲ渡ス事ハ・揉ノ段ノ内ニ・翁大夫後見・持
 来・袖ノ下ヨリ・左ノ手ニ・持ス事也・シカル所・近年
 ハ・諸流トモニ・大方・面箱ノ方へ・ヒラキ・請取・ク
 レヨト・翁大夫ヨリ・云也・尤・翁大夫後見ヨリモ・ニ
 ジリヨリ・渡スナレバ・ドチラヘナリトモ・取ヨキ方へ
 ・ヒラクベシ・是当時ノ・仕来ト・心得ベシ・尤・当時
 ノ・作法・コノム事ニハ・アラズ・古式ヲコノム也⁽²⁶⁾

